

南幌町長職務代理者
南幌町副町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 角 畠 徹
南幌町監査委員 佐 藤 妙 子

令和元年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和元年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和元年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和元年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和元年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和元年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和元年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和元年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

- (1) 令和2年7月20日（1日間）
- (2) 町立南幌病院3階会議室

3 審査の手続き

私たち監査委員は、町長から審査に付された令和元年度南幌町病院事業会計の決算審査にあたって、令和2年4月1日に制定、公表した「南幌町 監査基準」に基づき、決算報告書、財務諸表及び附属書類が関係法令に基づき作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか検証するため、担当職員から内容を聞き取るとともに、会計帳票、証拠書類との照合を行った。また、経営内容の動向把握の参考にするため、計数分析及び年次比較などによるすう勢分析を中心に、予算の適正かつ効率的に執行、運営がなされたかを検証して審査を実施した。

なお、文中の金額は消費税及び地方消費税を含んだ額で記載し、千円単位で記載したものは四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

また、文章中、特に必要な場合を除き、令和元年度は本年度、平成30年度は前年度、平成29年度は前々年度として記載した。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

① 入院・外来患者数

延患者数は、入院患者は 10,980 人と予算現額 12,810 人を△1,830 人下回り、達成率 85.7%、前年度比 477 人、4.5%の増となった。

外来患者は 14,184 人と予算現額 15,226 人を△1,042 人下回り、達成率 93.2%、前年度比△342 人、2.4%の減となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 77 人と前年度の 53 人に比べ、24 人、45.3%上回ったが、医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 24 件と前年度の 55 件に比べ△31 件、56.4%の減少、転院依頼件数は 56 件と前年度の 16 件に比べ 40 件の増加、受入実績は 41 件と前年度の 20 件と前年度に比べ 21 件、105.0%増加した。

合計では 25,164 人と予算延患者数 28,036 人に対し△2,872 人下回り、達成率 89.8%となった。

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項 目		令和元年度					平成30年度	
		予算現額	実績	達成率	前年度比		実績	前年度比 増減数
					増減数	増減率		
入院	一般	—	5,173	—	696	15.5%	4,477	△1,799
	療養	—	5,807	—	△219	△3.6%	6,026	△2,502
	小計	12,810	10,980	85.7%	477	4.5%	10,503	△4,301
外来	内科	13,496	11,659	86.4%	△1,483	△11.3%	13,142	△5,000
	小児科	0	1,039	皆増	1,039	皆増	0	0
	眼科	1,250	1,190	95.2%	82	7.4%	1,108	8
	外科	480	296	61.7%	20	7.2%	276	△45
	小計	15,226	14,184	93.2%	△342	△2.4%	14,526	△5,037
合 計		28,036	25,164	89.8%	135	0.5%	25,029	△9,338
内科患者数		26,306	22,639	86.1%	△1,006	△4.3%	23,645	△9,301

※ 入院患者は、全て内科の患者である。

② 診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 22,639 人と予算比△7,327 人、達成率 75.5%、前年度比△1,006 人、4.3%減少した。

小児科は 1,039 人となり、当初予算未計上のため予算比、前年度比で皆増した。

外科（整形外科）は 296 人と予算比△184 人、達成率 61.7%、前年度比 20 人、7.2%

増加した。

眼科は1,190人と予算比△60人、達成率95.2%、前年度比では82人、7.4%増加した。

③ 医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

本年度の医業収支を見ると収支差は赤字で△312,227千円と前年度比では赤字幅が△16,958千円増加した。

なお、住民の利便性と高齢者の増加を踏まえ週1日の診療を行っている眼科は696千円の黒字となり、前年度の14千円の黒字から増加した。月2回の予約優先診療を行っている外科は△312千円の赤字だが、前年度の△588千円の赤字と比べ改善した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、49.1%と0.6%改善した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示しており、平成28年度以降は概ね60%となってきたが、前年度に続く低い医業収支比率となった。

医業収益は前年度比22,845千円、8.2%増加したものの、医療体制の確保のため医業費用が613,302千円と前年度比39,803千円、6.9%の増加したことが原因である。

【表2 医業収支の推移】

（単位：千円）

年度 項目	令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差
医業収支	△312,227	赤字増加 △16,958	△295,269	赤字増加 △61,574	△233,695	赤字増加 △7,109	△226,586
医業収支比率	49.1%	0.6%	48.5%	△11.9%	60.4%	1.3%	59.1%

④ 年度別病床利用率の推移

町立南幌病院の一般病床26床、療養病床54床、合計80床は前年度と異動はないが、年度日数が1日多い本年度の病床利用率37.5%は、前年度から1.5%増加した。

本年度は、予算を下回ったものの前年度比で患者数、特に医業収益に大きく影響する一般病床の利用率は5,173人、54.4%と前年度の4,477人、47.2%から7.2%向上した。療養病床は5,807人、29.4%と前年度の6,026人、30.6%から△1.2%低下した。

病床利用率は医業収入の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の採算確保に重要なことから、50%以上の病床利用率を確保することが重要である。

【表3 年度別病床利用率の推移】

（単位：床、%）

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
利 用 率	37.5	1.5	36.0	△14.7	50.7	6.0	44.7	2.7	42.0	△7.5
延病床数	29,280		29,200		29,200		29,200		29,280	

⑤ 診療単価について

本年度の一人一日当たりの診療報酬は入院で 14,695 円と前年度比 657 円、4.7%の増加、外来で 5,809 円と前年度比 690 円、13.5%増加した。

前年度は、医療体制の脆弱化から入院、外来ともに単価が低迷したが、常勤医師 3 人体制の定着により安定的に医師の診療対応が図られたことが窺える。

なお、各月の単価を比較すると、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い受診が控えられた 3 月の単価は、入院では新規の入院が減少し一般で 16,773 円と平均より△1,937 円、10.4%低下したが、療養病床では 11,096 円と△22 円と大きな差はない。

外来でも、電話での投薬受付など来院者、新患が減少し 4,097 円と平均より△1,712 円、29.5%低い。

【表 4 患者一人一日当たり単価】

(単位：円)

診療科	令和元年度					平成30年度		
	予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実績	増減額	増減率
一般病床		18,710	—	1,279	7.3%	17,431	△829	△4.5%
療養病床		11,118	—	△421	△3.6%	11,517	△435	△3.6%
入院収益計	15,000	14,695	98.0%	629	4.5%	14,038	△588	△4.0%
内科		6,152	—	907	17.2%	5,263	△74	△1.4%
小児科		4,698	—	皆増	皆増	—	—	—
眼科		3,878	—	178	4.8%	3,695	51	1.4%
外科		3,979	—	26	0.7%	3,957	144	3.8%
外来収益計	5,330	5,809	109.0%	602	11.8%	5,119	△63	△1.2%

(2) 収益的収支について

医業収益は 301,075 千円と予算現額 333,507 千円に対し△32,432 千円、達成率 90.3%、前年度比 22,845 千円、8.2%の増収、うち入院収益は 161,347 千円と予算現額 192,150 千円に対し△30,803 千円、達成率 84.0%、前年度比 13,910 千円、9.4%増加した。

外来収益は 82,393 千円と予算現額 85,722 千円に対し△3,329 千円、達成率 96.1%、前年度比 8,035 千円、10.8%増収し、医業収益の 8 割を占める入院・外来収益は、予算現額 277,872 千円に対し 243,740 千円と△34,132 千円、達成率 87.7%、前年度実績 221,795 千円に比べ 21,945 千円、9.9%の増収となった。

その他医業収益は、予算現額 55,635 千円に対し 57,335 千円と達成率 103.1%、前年度比 900 千円、1.6%増加した。一般会計からの繰入普通交付税(救急告示分)36,294 千円は前年同額であり、企業健診などの減収△783 千円はあるが、予防接種料が接種人数の増加により 10,795 千円と前年度比 3,472 千円、47.4%の増収したことなどによる。

医業費用合計 613,302 千円は予算現額比△15,232 千円、達成率 97.6%となったが、前年度比 39,803 千円、6.9%増加している。

給与費は 383,693 千円と達成率 99.1%、前年度比 36,633 千円、10.6%増加した。

常勤医師2名、看護師、管理栄養士の採用による給料及び職員手当が213,973千円と前年度比36,630千円、20.6%増加したほか、法定福利費など医療体制の確保費用が増加した一方、前年度に比べ休日及び夜勤医師並びに医療体制確保のための派遣医師の賃金が△9,403千円、21.2%減少した。

材料費は32,105千円と達成率90.2%、予防接種の増加や入院患者数の前年度比477人、4.5%の増加などに伴い前年度比3,655千円、12.8%増加した。

経費は江別市立病院との医療連携による「医師派遣」に伴う常勤医が1名となったことから諸会費が20,740千円と前年度比△10,203千円減少する一方、検査・画像診断手数料の増加や常勤医師紹介手数料などが4,771千円、医療機器等保守点検・院内業務委託料などの委託料が5,600千円など全般に増加し158,147千円と達成率95.5%、前年度比3,030千円、2.0%増加した。

減価償却費は、減価償却の進行により37,894千円と前年度比△4,054千円、9.7%減少、資産減耗費は償却済み資産の除去に232千円及び使用期限切れ等による薬品類の棚卸資産除去費157千円の支出により389千円と前年度比△46千円、10.6%減少した。

この結果、医業利益は増収増費減益型の決算となり、予算現額△295,027千円に対し決算額△312,227千円と予算比△17,200千円、前年度の△295,269千円に比べ△16,958千円、5.7%悪化している。

医業外収益258,749千円は予算現額に対し達成率99.9%、前年度比7.3%の増加となっている。うち他会計繰入金247,164千円の内訳は、普通交付税（病床分）57,365千円、特別交付税等90,506千円（不採算地区79,541千円、医師派遣分1,624千円、基礎年金拠出分8,841千円、改革プラン500千円）に加え、児童手当1,399千円、リハビリテーション医療に要する経費5,464千円、医師確保対策22,430千円、資金不足に伴う一般会計繰入金70,000千円を受入れ、前年度比17,684千円、7.7%の増加となった。長期前受金戻入7,277千円は過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振りかえ、減価償却費の財源となっているもので前年度比△617千円、7.8%減少した。

医業外費用1,822千円は予算減額に対し△668千円、達成率73.7%、前年度比△62千円、前年度比3.3%と減少したが、患者外給食費費用、雑損失経理の方法の見直しによる。

以上の結果、本年度の経常利益は△55,300千円と前年度比672千円改善した。

特別損益では、不納欠損処理に伴う過年度損益修正損989千円を計上し、前年度の△56,193千円から△96千円の減益となり、当年度純利益は△56,289千円の純損失となった。

① 比較収益的収支計算書

【表5 比較収支計算書】

(単位:千円、%)

科 目			令和元年度					30年度
			予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実 績
医 業 収 益	入院 収益	一 般 病 床	—	96,787	—	18,750	24.0%	78,037
		療 養 病 床	—	64,560	—	△4,840	△7.0%	69,400
		入院収益計	192,150	161,347	84.0%	13,910	9.4%	147,437
	外 来 収 益	内 科	78,802	71,726	91.0%	2,554	3.7%	69,172
		小 児 科	0	4,881	—	4,881	皆増	0
		眼 科	5,000	4,608	92.2%	514	12.6%	4,094
		外 科	1,920	1,178	61.4%	86	7.9%	1,092
		外来収益計	85,722	82,393	96.1%	8,035	10.8%	74,358
	そ の 他 医 業 収 益		55,635	57,335	103.1%	900	1.6%	56,435
	合 計		333,507	301,075	90.3%	22,845	8.2%	278,230
医 業 費 用	給 与 費		387,279	383,693	99.1%	36,633	10.6%	347,060
	材 料 費		35,580	32,105	90.2%	3,655	12.8%	28,450
	経 費		165,617	158,147	95.5%	3,030	2.0%	155,117
	減 価 償 却 費		37,895	37,894	100.0%	△4,054	△9.7%	41,948
	資 産 減 耗 費		513	389	75.8%	△46	△10.6%	435
	研 究 研 修 費		1,650	1,074	65.1%	585	119.6%	489
	合 計		628,534	613,302	97.6%	39,803	6.9%	573,499
医 業 利 益			△295,027	△312,227	105.8%	△16,958	5.7%	△295,269
医 業 外 収 益	受取利息及び配当金		1	1	100.0%	0	0.0%	1
	患 者 外 給 食 収 益		1,280	890	69.5%	△134	△13.1%	1,024
	他 会 計 負 担 金		23	23	100.0%	△7	△23.3%	30
	他 会 計 繰 入 金		247,164	247,164	100.0%	17,684	7.7%	229,480
	そ の 他 医 業 外 収 益		3,415	3,394	99.4%	642	23.3%	2,752
	長 期 前 受 金 戻 入		7,180	7,277	101.4%	△617	△7.8%	7,894
	合 計		259,063	258,749	99.9%	17,568	7.3%	241,181
医 業 外 費 用	支払利息及び企業債取扱諸費		34	34	100.0%	△10	△22.7%	44
	患 者 外 給 食 費 用		1,256	786	62.6%	△212	△21.2%	998
	雑 損 失		1,200	1,002	83.5%	160	19.0%	842
	合 計		2,490	1,822	73.2%	△62	△3.3%	1,884
経 常 利 益			△38,454	△55,300	—	672	—	△55,972
特 別 利 益			0	0	—	0	0%	0
特 別 損 失			989	989	100.0%	768	347.5%	221
当 年 度 純 利 益			△39,443	△56,289	—	△96	—	△56,193

(3) 資本的収支について

本年度では、ボイラー煙管交換工事 3,780 千円をはじめ、医療・療養環境整備のために自動分包機 1,512 千円、電動リモートコントロールベッド 1,069 千円、画像読取装置 6,480 千円の更新など固定資産の取得に建設改良費として合計 15,786 千円及び企業債償還金 15,313 千円、合計 31,099 千円を支出している。

資本的支出に対して、資本的収入は企業債発行 8,700 千円のほか、一般会計からの企業債償還元金相当額 10,209 千円を出資金として、国保会計から医療機器購入補助金 3,240 千円受入れ、合計 22,149 千円を受け入れている。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△8,950 千円となった。

これに当年度減価償却費 37,894 千円など現金支出の伴わない損益勘定留保資金を充てている。

【表 6 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令和元年度			平成30 年 度	平成29 年 度
		決 算 額	前年度対比			
			増減額	増減率		
収 入	出 資 金	10,209	△1,805	△21.5%	8,404	9,920
	繰 入 金	3,240	△622	△23.8%	2,618	0
	企 業 債	8,700	△4,300	△97.7%	4,400	153,300
	収 入 合 計	22,149	△6,727	△43.6%	15,422	163,220
支 出	建設改良費	15,786	△8,311	△111.2%	7,475	157,243
	企業債償還金	15,313	△2,707	△21.5%	12,606	14,878
	支 出 合 計	31,099	△11,018	△54.9%	20,081	172,121
収 支 差		△8,950	4,291	△92.1%	△4,659	△8,901

(4) 財務について

本年度病院事業会計の財務規模は 674,929 千円と前年度比△51,361 千円、7.1%減少している。

① 資産の部（運用）

資産勘定減少の主なものは、減価償却資産の取得更新による差引 11,146 千円の増加はあったものの減価償却累計額が△33,486 千円、2.6%増加しているため、固定資産の正味残高は 580,410 千円と前年度比△22,340 千円、3.7%減少したため、構成比も 86.0%と前年度より 3.0%縮小している。

流動資産の△29,021 千円、23.5%の減少は、現金・預金が前年度比△38,049 千円、41.4%と大幅に減少したことによる。未収金が入院の増加等により前年度比 8,854 千円、29.5%増加したが貯蔵品に大きな増減はない。

【表 7 比較貸借対照表（資産）】

（単位：千円）

区 分		令 和 元 年 度 末				平成 3 0 年度	
		決 算 額	構成比	前 年 度 対 比		決 算 額	構成比
				増減額	増減率		
固 定 資 産	土 地	13,454	2.0%	0	0.0%	13,454	1.7%
	減 価 償 却 資 産	1,904,772	282.2%	11,146	0.6%	1,893,626	260.7%
	減価償却累計額	△1,337,969	△198.2%	△33,486	2.6%	△1,304,483	△179.6%
	減価償却資産小計	566,803	84.0%	△22,340	△3.8%	589,143	81.1%
	無 形 固 定 資 産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	580,410	86.0%	△22,340	△3.7%	602,750	83.0%
流 動 資 産	現 金 ・ 預 金	53,888	8.0%	△38,049	△41.4%	91,937	12.7%
	未 収 金	38,881	5.8%	8,854	29.5%	30,027	4.1%
	貯 蔵 品	1,750	0.3%	174	11.0%	1,576	0.2%
	流動資産計	94,519	14.0%	△29,021	△23.5%	123,540	17.0%
資 産 合 計		674,929	100.0%	△51,361	△7.1%	726,290	100.0%

② 有形固定資産の状況

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め 1,918,225 千円と前年度末対比 11,146 千円増加している。減価償却累計額 1,337,969 千円は前年度比 33,486 千円、2.6%の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は 69.8%となっている。

【表 8 有形固定資産の明細】

（単位：千円）

区 分	前年度末 残 高	令 和 元 年 度 末				
		増 加	減 少	年度末 残 高	減価償却 累 積 額	正 味 残 高
土 地	13,453	0	0	13,453	0	13,453
建 物	1,569,815	3780	0	1,573,595	1,060,128	513,467
構 築 物	66,940	0	0	66,940	63,593	3,347
器 械 ・ 備 品	256,871	12,006	4,640	264,237	214,248	49,989
合 計	1,907,079	15,786	4,640	1,918,225	1,337,969	580,256

③ 負債・資本の部（調達）

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債 8,700 千円を発行したが、翌年度償還分 33,421 千円を流動負債の部に振替えたため 24,721 千円減少した。

病院整備事業債は本年度に 8,700 千円を発行し、前年度末残高 222,366 千円（固定負債 207,053 千円、流動負債 15,313 千円）に対し 15,313 千円を償還して 6,613 千円減少し残高は 215,753 千円（固定負債 182,332 千円、流動負債 33,421 千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して1年以内支払分を流動負債、1年超支払分を固定負債に区分する1年会計基準により、令和2年度の償還予定額24,721千円を固定負債から振りかえ、企業債残高が33,421千円と18,108千円、118.2%、医療職の退職給付引当金が23,098千円と4,685千円、3.4%増加したことから84,978千円と前年度比23,477千円、38.2%増加した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受け入れた一般会計等からの補助金を長期前受金に計上し、当年度分7,277千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充てたことから134,193千円と前年度比△4,037千円、2.9%減少し、負債の部合計額は401,503千円と前年度比△5,281千円、1.3%減少している。

資本の部では繰入資本金が1,030,003千円と一般会計から10,209千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が△56,289千円となったことから当年度末未処分利益剰余金（累積欠損金）は△884,097千円と減少し資本合計は273,425千円となった。

【表9 比較貸借対照表（調達）】

（単位：千円）

区 分			令和元年度末				平成30年度末	
			決算額	構成比	前年度対比		決算額	構成比
					増減額	増減率		
負債の部		企業債	182,332	27.0%	△24,721	△11.9%	207,053	28.5%
		固定負債合計	182,332	27.0%	△24,721	△11.9%	207,053	28.5%
	流動負債	企業債	33,421	5.0%	18,108	118.3%	15,313	2.1%
		未払金	26,037	3.9%	890	3.5%	25,147	3.5%
		諸引当金	23,098	3.4%	4,685	25.4%	18,413	2.5%
		その他流動負債	2,422	0.4%	△206	△7.8%	2,628	0.4%
		流動負債計	84,978	12.6%	23,477	38.2%	61,501	8.5%
	繰延収益	長期前受金	537,764	79.7%	3,240	0.6%	534,524	73.6%
		長期前受金収益化累計額	△403,571	△59.8%	△7,277	1.8%	△396,294	△54.6%
		繰延収益計	134,193	19.9%	△4,037	△2.9%	138,230	19.0%
	負債合計		401,503	59.5%	△5,281	△1.3%	406,784	56.0%
資本の部	資本金	固有資本金	35,033	5.2%	0	0.0%	35,033	4.8%
		再評価組入資本金	1,885	0.3%	0	0.0%	1,885	0.3%
		繰入資本金	1,030,003	152.6%	10,209	1.0%	1,019,794	140.4%
		組入資本金	90,601	13.4%	0	0.0%	90,601	12.5%
		資本金計	1,157,522	171.5%	10,209	0.9%	1,147,314	158.0%
	剰余金	繰越利益剰余金	△827,808	△122.7%	△56,194	7.3%	△771,614	△106.3%
		当年度純損失	△56,289	△8.3%	△95	0.2%	△56,194	△7.7%
		剰余金計	△884,097	△131.0%	△56,289	6.8%	△827,808	△114.0%
	資本合計		273,425	40.5%	△46,080	△14.4%	319,506	44.0%
	負債・資本の部合計		674,928	100.0%	△51,361	△7.1%	726,290	100.0%

5 審査の結果

(1) 経営概況

令和元年度末の人口が 7,464 人と前年度末の人口 7,538 人から△74 人、1.0%減少するなか、外来患者数は 14,184 人と前年度の 14,526 人を△342 人、2.4%、前々年度の 18,827 人を△4,643 人、24.7%下回った。

医療連携による派遣医師のほか 2 名を新規に採用し、年度当初から常勤医師 3 名体制で診療に取り組み、外来患者数は年度当初は前年度を下回ったが、徐々に増加し 9 月以降は 1 月で△49 名前年度を下回ったものの、下半期のすべての月で前年度を上回った。

前年度は常勤医 1 名体制が明らかになった 9 月頃から急激に患者数が落ち込み、年度末では 3 月単月で前々年度比△289 人、22.0%下回った。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外来患者の診療控えの影響を受け、前年度を 11 人上回ったが、前々年度の水準まで回復しきっていない。

年度末人口で外来の延患者数を除した来院頻度を見ると本年度は 1.90 回と前年度の 1.93 回から△0.03 回、前々年度の 2.00 回を△0.10 回下回ったが、外来収益では 82 百万円と前年度の 74 百万円を 8 百万円、前々年度の 79 百万円を 3 百万円上回った。

診療科別では、小児科は前年度まで内科で診療していたことを勘案し、両科を合わせた患者数が 12,698 人と予算延人数 13,496 人に対し△798 人、達成率 94.1%、前年度実績 13,142 人に比べ△442 人、3.8%減少している。

他科は、別項記載のとおりである。

一方、入院患者は年度当初こそ前年度を下回っていたが、8 月以後徐々に患者数が回復し、通年では 477 人、4.5%の増加となった。

病床別に見ると一般病床は患者数、診療単価、収益の全てが前年度を上回ったが、療養病床は患者数、診療単価、収益の全てが前年度を下回っている。

病床利用率は一般病床 54.4%と前年度の 47.2%を 7.2%上回ったが、療養病床は 29.4%と前年度の 30.6%を△1.2%下回り、合計で 37.5%と前年度を 1.5%上回った結果、入院収益は 161 百万千円と前年度の 147 百万円を 14 百万円上回った。

本年度は、医業外収益で一般会計から総額 247 百万千円と前年度の 229 百万円を 18 百万円上回る繰り入れにより収支を補ったが、経常利益は△55 百万円と前年度の △56 百万円を 1 百万円上回った結果、当年度純利益は△57 百万円と前年度より赤字幅がわずかに拡大し、繰越利益剰余金は△884 百万円の累積損失となった。

なお、本年度において医療職、専門職の採用を含め診療体制の充実を図るとともに 9 月 26 日に総務省が公表した「公的病院の全国 424 病院、道内 54 病院の再編検討」の対象病院もとされ、平成 29 年度に策定した「新・国民健康保険町立病院改革プラン実施状況点検・評価」に基づく検証を踏まえた検討が進められた。

(2) 審査意見

令和元年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに附属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い「地域医療を担う町立病院としての役割」が再確認され、その重要性が増していることを踏まえ、経営の維持改善を期待し付記する。